

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	0191000058		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	江別ケアパーク そよ風		
所在地	江別市1条3丁目12番地の2 (電話) 011-389-3924		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】 (21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	12月	10日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	17 人	常勤	15人	非常勤 2人, 常勤換 15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	5階建ての	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000円	その他の経費(月額)	運営管理費20,000円	
敷金	有()	無	円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	11名	女性	7名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	69歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 共生会江別老人館診療所、(医) 藤花会江別谷藤病院 他
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR江別駅前の再開発地区にある新しいグループホームである。5階建ての建物で、有料老人ホーム、ショートステイ、デイサービスが併設され、3階の半分がグループホームとなっている。建物は新しく清潔に保たれ、1フロアに2ユニットがあり双方が交流しやすくなっている。建物内のほかの温泉入浴施設が利用でき、文化活動・レクリエーション活動に参加できるなど、楽しみの幅が広がっている。ホームでは外出行事に特に力を入れており、工場見学や日帰り温泉など、楽しめる企画を考え充実させている。医療面でも往診体制が充実している。管理者のサービス改善への取り組み姿勢が良好であり、外部評価時の情報開示についても非常に協力的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価は今回が初めてである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者を中心に作成し、職員全員が理解するには至っていない。自己評価の実施から日が浅く、改善項目の取り組みはこれからであり、自己評価は職員全員での作成が望ましく、ガイドブックを参考に、内容の理解を深め、改善計画シートも活用されることを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は過去に3度開催され、今後は2ヵ月に1度の開催を予定している。包括支援センターや利用者家族の参加はあるが、地域代表者、学校の先生などの参加には至っていない。会議は報告や予定、意見交換にとどまり、今後テーマの検討の余地がある。会議の定期開催と、参加メンバーの多様化、会議テーマの適切な設定などにより、会議をより充実したものにされることを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日常の来訪時や運営推進会議で意見をいただいている。また重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示している。しかし、過去の苦情処理について、どのようなものがあり、どの様に対処したかの記録は整理されていないため、過去の苦情処理について、内部で適切に回議し記録に残すよう、措置の概要などの明示を含め、体制整備に期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 夏祭りや陶器市などの地元の行事に参加したり、幼稚園の園児が遊びに来たり、毎月、折り紙のボランティアが訪れ、利用者の楽しみながらのリハビリ活動を援助している。有料ホームの住民やデイサービス利用者とは、様々な行事を通じた交流を行なっている。徐々にではあるが、地域とのつきあいを広め、新年度の4月から町内会に参加することとしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人グループで共通の基本理念があり、介護サービスの基本方針や品質方針を示しているが、地域密着型サービスに関する内容は掲げられてはいない。	○	基本理念やホーム独自の理念・方針などの中で地域密着や地域との交流について掲げられ、取り組まれることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの見やすい部分に掲示され、全体朝礼の中でも唱和している。しかし、理念内容の理解や実践について、職員全員に十分浸透しているとまではいえない。	○	理念の唱和にとどまらず、内容の理解や日々のサービス向上につなげる取り組みが実現できるよう、研修やミーティングの充実を期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや陶器市などの地元の行事に参加したり、幼稚園の園児が遊びに来たり、折り紙のボランティアが来ていただいている。今後、運営推進会議を通じて、地域との関係力を深めたい意向を示しており、新年度の4月から町内会に参加することとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は今回が初めてであり、自己評価は管理者を中心に作成し、職員全員が理解するには至っていない。自己評価の実施から日が浅く、改善項目の取り組みはこれからである。管理者は、外部評価結果をサービス向上に活かすべく、積極的な改善項目への取り組み姿勢が窺われる。	○	自己評価は職員全員での作成が望ましい。ガイドブックを参考に、内容の理解を深めて取り組まれ、さらに、改善計画シートも活用されることを期待する。

江別市 グループホーム 江別ケアパークそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は過去に3度開催され、今後は2ヵ月に1度の開催を予定している。包括支援センターや家族の参加はあるが、地域代表者、教育関係者などの参加には至っていない。会議は報告や予定、意見交換にとどまり、今後テーマの検討の余地がある。	○	会議の定期開催と、参加メンバーの多様化、会議テーマの適切な設定やミニ学習会を合わせ持つことなどにより、会議をより充実したものにされることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の江別駅前再開発事業の推進として、一昨年新たに認定したグループホームでもあり、介護保険課と連絡を密に取っている。相談ごとなどについては、その都度意見を仰ぎ、実地指導も受け、細かなアドバイスをいただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の報告、ホームだより、受診報告、金銭報告を作成し、家族に送付している。家族からは日々の暮らしや健康面、医療面でのさらなるきめ細かな情報提供が期待されている。	○	家族と接する機会やホーム便りに個人別の手紙を添付するなどの工夫を凝らし、日々の暮らしや健康面、医療面での情報提供の充実を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の来訪時や運営推進会議で意見をいただいている。また重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示している。しかし、過去の苦情処理について、どのようなものがあり、どの様に対処したかの記録は整理されていない状況であり、措置の概要について明示されていない。	○	外部の苦情受付機関については、電話以外でも苦情が表出しやすいよう、住所やFAX番号も明示するのが望ましい。過去の苦情処理について、内部で適切に回議し記録を残すよう、また、苦情における措置の概要についての明文化を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなるべく少なくなるようにしている。やむを得なく退職などがある場合は、利用者のダメージとならないよう、しばらく休むなどと伝えて影響を防いでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が独自にグループホーム研修用のマニュアルを作成し、新人教育や会議での研修などに取り組んでいるが、昨年まで、ユニットによって取り組みが異なった状況が続き、外部研修の参加も全体的に少ない状況である。	○	働きながら技術や知識を習得できる内部研修のさらなる充実と外部研修参加への積極的な支援や機会の確保を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム職員などが施設の見学に来ることはあるが、事業所の職員が他のホームでの研修に参加したり、情報交換を行う機会はまだない。管理者は、同業者との連携の必要性について認識を持ち、市内の連絡会に加盟する意向を示している。	○	今後、同業者との交流機会を増やし、勉強会や相互訪問により、他を知る事による自己サービスの気づきに繋げられ、お互いのサービス向上に向けて取り組まれることを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者の居する所への訪問も含めて、複数回面談を行ない、馴染みの関係となり、ホームを見学した上で入居を決定している。部屋が空いている場合は希望により、体験入居や併設ショートステイを事前利用していただくなど、家族・利用者の状況に応じた調整を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を踏まえて日常の対等な立場を心がけている。習字や料理の下拵え、片付け、掃除の昔ながらの手順を教えていただくなど、利用者から学んだり、職員は、利用者の困難な場面をさりげなく支えるなど、関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一方のユニットにおいては入居時に生活歴などを記したアセスメントシートを作成し、日ごろの介護の中で思いや意向の把握をしているが、もう一方のユニットでは詳しいアセスメントシートは作成されておらず、思いや意向の把握が十分とはいえない。	○	両方のユニットで同じように充実した取り組みがなされるよう期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一方のユニットにおいては、職員によるきめ細かなアセスメントに基づいた介護計画を作成し、利用者や家族の同意をいただいているが、もう一方のユニットでは細かなアセスメントや利用者カンファレンスに基づく計画書の作成には至っておらず、十分とはいえない。	○	両方のユニットで同じように関係者の意見を反映した、利用者の生活を支えるためのきめ細かな介護計画を作成されるよう期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一方のユニットにおいては、毎月2回の利用者カンファレンス及びモニタリングを行ない定期的な介護計画の見直しや、状態変化に応じた支援の見直しが行なわれているが、もう一方のユニットでは定期的な見直しが行なわれていない状況である。	○	今後、両方のユニットが共通のケアマネジメントを実施することとなり、上記2つの項目を含め改善計画に向かわれている。その人らしい暮らしを支援するためには、現状に合った介護計画の見直しは重要である。法人組織としてもケアマネジメント自体（仕組み）について、齟齬（そご）が発生しないよう今後の取り組みに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算は得ていないが、内科、歯科の往診体制を整えている。併設のデイサービスや有料老人ホームの文化・サークル活動に参加したり、それらの温泉入浴施設を利用することも出来る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1回の内科医の往診と併設のほかの施設の歯科医の往診を利用している。通院は家族対応としているが、家族が難しい場合はホームで行なっている。受診結果は家族にその都度報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針について、ユニット間で方針の統一が行なわれておらず、職員との方針の共有も行なわれていない。ホームとして今後、医療連携加算の認定について検討を行なっていくこととしている。	○	重度化や終末期のあり方についてホームの方針を統一し、文書化することが望まれる。職員間での意志統一は勿論のこと、利用者や家族とも方針の共有がなされることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に注意を払っているが、言葉遣いで気になる場面もあり、管理者が、その都度指導している。個人別ファイルの記入においても注意が必要である。	○	言葉かけ、声かけについて、利用者のプライバシーや誇りが確保されるよう、きめ細かな教育が期待される。また、日々の記録なども利用者の目に入らないような配慮を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合を優先することなく、利用者ペースに合わせた生活支援を行なっている。起床、食事、散歩など、利用者の体調や希望に合わせた時間やペースで支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に楽しく会話し、食事をしている。準備や片付け、「いただきます」の挨拶に利用者が参加している。行事食や外食を取り入れ、食事が楽しみごとになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができ、1人平均週2回程度の入浴を行なっている。拒む方や体調の悪い方は清拭するなど臨機応変に対応している。併設施設の温泉浴場を利用することもでき、利用者の楽しみとなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付けを手伝っていただくほか、レク活動として体操や習字、貼り絵、折り紙などで楽しんでいる。併設施設で開催される行事への参加やデイサービス施設の空いた時間を利用し、運動を行なうなど柔軟な支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の散歩には職員が同行している。毎月複数回、外出行事を企画し、食品工場見学や日帰り温泉、季節を感じていただける場所など、様々なところに訪問している。外出する場合は、利用者が偏らないよう配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階のショートステイと共用の玄関は自動ドアで、奥ドアの外側は施錠されインターホンで開錠する仕組みとなっている。各ユニットからエレベータへの出口は鍵をかけていない。個室は利用者の意思で内側から鍵をかけられるようになっている。		

江別市 グループホーム 江別ケアパークそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設後1年の間に2回、昼夜を想定した避難訓練を行なっている。しかし運営推進会議で災害時における地域住民とホームの協力体制についての話し合いはまだなされておらず、救急救命訓練を受けていない職員もいる。	○	運営推進会議で災害時の地域住民との協力体制について、話し合いをもたれることを期待する。また、職員全員の救急救命訓練の受講や防災備品（水、食料など）の用意も今後期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、併設の有料老人ホームの管理栄養士の指導やアドバイスを受けて献立を作成し、カロリーや栄養バランスに配慮され、提供されているが、一方のユニットでの食事摂取量等の把握が十分とはいえない。	○	一日全体の食事や水分摂取量が把握できるような記録方式や、利用者の状態に応じた栄養マネジメントが充実するよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広くゆったりして、清潔に保たれており、温度や湿度にも配慮している。居間から外の眺めが良く、目に映る景色が利用者の話題にもなっている。廊下が長く、歩行リハビリに役立っている。利用者専用トイレは3箇所あるが、トイレや浴室において手すりの不足が感じられる。	○	今後、身体機能低下は余儀ないことであり、浴室やトイレをより安心して利用できるよう、手すりの増設が期待される。利用者や家族からも意見をいただきながら、設置についての検討を期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、利用者の自由な馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。利用者自ら予定などを書き込んだカレンダーや、写真、置き物などが飾られている。家族訪問の際は、居室でゆったり過ごせる広さである。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。